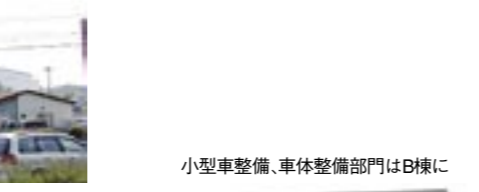


独自の発想で「使い勝手」を追求、 最高の作業効率・環境対応を実現

秋田県内に8拠点を展開する秋田いすゞ自動車(株)では、このたび本社・秋田営業所を移転新築し、いすゞ車の販売・サービス全般にわたって、いっそう高度な顧客満足を実現できるサービス体制を構築されています。



大型車整備11ストール、検査ラインを擁するA棟



小型車整備、車体整備部門はB棟に



荷重試験装置を備えた検査ライン



秋田県を南北に縦貫する国道7号線に面し、アクセスも良好

効率・環境面ともに「最高の工場」に

秋田市内から青森方面へ向かう国道7号線に面した、秋田いすゞの新・本社は敷地面積約4,500坪、広大な敷地に本社、秋田営業所およびサービス全般にわたる機能を集約した同社最新の拠点です。

同社は昨年、新秋田いすゞモーターとの合併により大型車から小型車までの総合ディーラーとしてスケールアップ。これにともない、サービスの内容では大型車から小型車の整備、および車体整備まで、あらゆるサービスに対応できる設備、機能を網羅したものとなっています。従来の2工場体制からすると、スペース的には大幅に削減し、その反面、作業効率面では大幅なアップを達成されているとのこと。

新工場の構想のポイントは、サービスの機能面はもちろんですが、「働きやすい職場、安全面、福利厚生面に力を入れた」と、佐藤信夫専務。「稼ぐ現場」としての工場だけに、効率・環境の両面で「最高の工場に…」という思いが貫かれています。



ツインエースの両側にグレーチングの側溝を設け、ピット内に排水できる

「逆転の発想」で設備を見直す

基本的なレイアウトは佐藤専務のパソコンから生み出されたもの。本社・社屋から続く「A棟」には大型車整備11ストールと検査ライン、さらにB棟には小型車6ストールおよび、大型塗装ブース、フレーム修正装置、洗車場などを配置。工場全体にわたり、あらゆる作業スペースにリフト等の設備が導入されています。また独自の発想による設備も随所に。ブレーキドラムの洗浄排水は埋設リフトのピットに流すなど、これまでにない「逆転の発想」を採用しています。また2連のフロアリフトの地下には広いピット空間をとり、エンジン、ミッション整備等、余分なスペースをとりがちな作業に当てています。

また寒冷地とあって暖房等の設備も充実。イニシャルコストと将来的なランニングコストの両面から検討し、廃油ボイラーによる給湯、暖房システムを導入されています。これにより、洗車温水、床暖房、天井温水暖房機、さらに浴室まで、あらゆる熱エネルギーの供給をまかなえる集中システムを実現しています。



明るく、快適な作業環境を実現

意識を高め、有効活用を図る

「設備は使い方イメージがぜんぜん違ってく」と話されるのは、長年サービスを統括してこられた山信田哲美部長。せっかくお金をかけても使われない設備は無駄、「使い勝手の良いシステムこそ結果的にはもっとも効果的」という観点からあらゆる設備機器を見直し、独自のアイデアで「当たり前でない設備づくり」を実現されています。

きれいな工場も「いったん汚してしまったらそれまで」。そのため、どうしたらきれいに維持できるか、工場内のルールを徹底することにより「意識を高める」ことも「仕事のけじめ」として重視されています。最新の設備、最高の環境から生まれる高品質なサービスを、大型車ユーザーへの満足度に結び付けていく、全社一丸となつての取り組みに大きな期待をかけられています。



「スカニック」のフロアレールは各拠点ごとに設備



これもあえて固定式を採用した下部洗浄機と側面洗浄機が省力効果を発揮



環境と省エネに貢献、合計60万キロカロリー熱源をまかなう廃油ボイラー

